エンジニアパーク Engineer Ring Park

井上　真仁（いのうえ　まさひと）

●水産部門（水産土木）

勤務先

北海道釧路総合振興局
釧路建設管理部中標津出張所

➡ 次号は、小川元樹さん（水産部門）

私は札幌市に生まれ 2000 年（平成 12 年）より北海道職員として漁港や海岸事業に携わっております。現在は道東にて勤務し、天気の良い日は北方領土の国後島を眺めながら水産基盤整備・社会基盤整備に微力ながら尽力しております。

どこの役所でもどこの会社でも言われていることですが『若手の技術力低下』という言葉にカチンときて、なんとかオジサン達と対等に渡り合いたい、そう思いようやく念願の技術士を取得した現在 36 歳となり、いつの間にか若手というよりオジサンに片足を突っ込んでいます。

我々発注者の立場に求められることは、①現地でどんなことが起こっているか、どんな不都合があるのかを現地を見て、利用者・住民との対話の中で確実に把握し、②その状況をコンサルタントへ伝え、ともに頭を悩ませ、さらに成果の是非を判断する③そしてその成果から工事を発注し、その品質を確保することです。つまり『現地の状況から最終形をイメージし、実際の整備につなげる』総合的な技術力が求められます。公共事業の削減が進む中で最小限の投資で最大限の効果を発揮するためには発注者が自ら先頭に立って技術力の向上を図る必要があると考えています。公務員技術士としてコンサルタント・ゼネコン等だけでなく地域住民からも信頼される技術者を目指すとともに、周りの発注者に技術力向上を呼びかけ北海道の社会基盤整備のレベルの底上げに貢献したいと考えております。

市之宮　広（いちのみや　ひろし）

●建設部門（都市および地方計画）

勤務先

株式会社 ドーコン 技術情報部
新規事業開発室
h.ichinomiya@gmail.com

➡ 次号は、林　昌弘さん（建設部門）

私は、札幌市西区平和で育ちました。自宅から見える手稲山の景色が好きで、手稲山を眺めながら暮らし続けたい、より良い生活環境を創りながら暮らし続けたいと思っていました。大学では環境（都市）計画分野を専攻し、卒業後、建設コンサルタント会社に就職、現在に至っています。

入社後、まちづくり関連の業務に携わっていましたが、今年度より「（自称）北海道を元気にする事業を応援する部署」に所属しています。より良い生活環境を創るには「マチ・人が元気でなくてはいけない」、手稲山の麓で暮らし続けるためには「北海道を元気にしないといけない」と思っていました。今の職場で、「自分（技術士）は何ができるのか、どのような取組（事業）を進めるのが北海道の元気づくりに貢献できるのか」を考えながら、新しい事業や調査の企画立案に携わっています。

北海道を元気にするためには、東アジア各国との経済・人的交流を活発にする等、これまで以上にグローバルな視点で考えなくてはいけない時代に突入しました。自分一人の力では限界があります。本誌を読んでいる技術士みなさんの知恵を結集して、北海道の元気づくりに貢献したいと思っています。楽しく、創造性を持って！

⇒次号は、私同様、熱い想いを持って、東京で頑張っている林さんのお話です。